

2014年7月28日

8年ぶりに「ヤクルトレディ」の新CMスタート！

各世代から支持される、大泉洋さんを起用

ヤクルトレディの魅力を、会社員役の大泉さんが第三者の視点で表現

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）では、人気俳優の大泉洋さんを起用した「ヤクルトレディ」の新テレビCM「ヤクルトさん 会社」篇（15秒、30秒）、「ヤクルトさん 市場」篇（30秒）を8月1日（金）から放送します。

ヤクルトレディとお客さまとのやりとりを見ている第三者の視点で、大泉さんがヤクルトレディの魅力についてつぶやく今回のCM。大泉さんならではの明るいキャラクターにより、視聴者にユーモアと共感を届けます。



【広告の目的】

誕生から51年を迎えるヤクルトレディの活動を、改めて広く皆さまに知っていただくためのテレビCMです。ただ商品をお届けしているだけではなく、笑顔や気づかいなど地域の人々とのコミュニケーションを大切にしているヤクルトレディならではの魅力を、様々な角度から紹介していきます。

【キャッチコピー】

『いい毎日には、ヤクルトさんがいる。』

これはヤクルトレディを見かけた会社員役の大泉さんの声であると同時に、ヤクルトレディがお客さまの健康な毎日をサポートする存在になれるようにという思いが込められています。

■ヤクルトレディについて

ヤクルトレディは昭和38年から採用したヤクルト独自の宅配システムで、今年で51年目を迎えます。ヤクルトレディはほとんどが家庭の主婦であり、その多くが独立した事業主で、食品衛生や商品の基礎知識について十分な研修を受け、お届け・販売をしています。

■ヤクルトレディの人数（国内）

38,899名（平成26年3月末時点）

■テレビCMの設定

下町にある小さなメーカー「(株)玩具の大洋堂」に務める、入社歴18年の営業マン。おもちゃの企画開発から営業まで何でもこなす課長代理である。ちょっとヌケている所はご愛嬌。仲の良いアットホームな会社のムードメーカー的存在であり、部長の加藤とは仕事帰りによく飲みに行く間柄。大恋愛をして結ばれた可憐な妻と、3歳になるやんちゃな息子がいる。

■テレビCMのポイント

どこにでもありそうな話

会社に勤めて18年。いろいろと分かっているつもりではあるけれど、本当に分かっていると言えるのか？ そんな疑問も湧いてくる男40歳。そこでちょっと視野を広げてみる。ヒントはいろんなところにあるはずだ。例えば、毎日会社に来るヤクルトさん。「どうして彼女のまわりは、いつもあんなにほんわかしているんだろう」…そこで大切な何かに気づく大泉さん。そんな日常の一部を切り取ったCMが、今後も展開されていきます。

大泉さんのつぶやき

笑顔のコミュニケーションや、直接手から手へ商品をお届けすること等、ヤクルトレディの魅力について、あくまでも会社員役の大泉さんが感心して思わずつぶやくひと言に、視聴者の皆さまからも「確かにそうかも…」という共感を持っていただけるCMになっています。

■撮影中のエピソード

あれ、どこからか口笛が…

撮影は、大泉さん扮するおもちゃメーカーの営業マンが、上司に注意されるシーンからスタート。自信をもって提案した企画書にどうやら間違いが。役の上とはいえ、大泉さん、へこんでしまっていないかな…と思いきや、撮影の待ち時間には♪ジョア ヤクルトジョア 誰のもの～♪と馴染みのメロディの口笛が。ちょっぴりうっかりさんな役どころを楽しんでいるようでした。

舞台は、下町のおもちゃメーカー。

大泉さん演じるのは、後輩に慕われ上司には頼りにされる、熱意あふれる営業マン。CMとしてではなく、ドラマの続きが見たくなります。撮影現場のとところどころに、昔なつかしいおもちゃたちが。水でっぽうに、パンチガン。レアもののプラモデルも。大泉さんも思わず手にとって、遊んでいました。

1つのシーンにも多彩な表情

自分の演技をビデオで確認する大泉さんは、真剣そのもの。「ここ、笑っちゃうっていうのもありかな？」とアクションや声のトーン、間の取り方など、1つのシーンにもいろいろな表情を見せてくれました。どの演技もおもしろい！CMですべてをお見せできないのが残念です。

■CMメイキングショット



■出演者プロフィール

大泉洋(おおいずみ よう)さん



1973年4月3日、北海道生まれ。

北海道発の深夜番組「水曜どうでしょう」(HTB)でブレイク。

演劇ユニット“TEAM NACS”メンバーとして、舞台公演で大人気を博すほか、映画・TVドラマにも続々出演。

主な映画出演作に「アフタースクール」(08)「探偵はBARにいる」(11)「しあわせのパン」(12)「探偵はBARにいる2」「清須会議」(13)「青天の霹靂」(14)など。

TVドラマに「ハケンの品格」(07/NTV)「龍馬伝」(10/NHK)「ラッキーセブン」(12/CX)「地の塩」(14/WOWOW)など。

また自身の16年間に詰まったエッセイ集「大泉エッセイ～僕が綴った16年～」(メディアファクトリー)を出版するなど、多彩な活動を見せている。